

三条南ロータリークラブ週報

Sanjo Minami Rotary Club



2012. 5.14

No.2036
No.36



出席率	会員46名中33名
先々週の出席率	97.33%
ゲスト	自衛隊新潟地方協力本部本部長 吉田賢一郎様 〃 総務課 古田島友樹様 伊佐隆行様
ヴィジター	米山奨学生 才布騰道日吉さん
先週の メイクアップ	4/24 三条北RCへ 馬場眞樹君 星野健司君 飯山勝義君 草野恒輔君 野崎正明君 佐々木常行君 谷 晴夫君 4/25 三条RCへ 赤塚 寧君 飯山勝義君 野崎正明君 谷 晴夫君 5/2 三条RCへ 佐々木常行君 高橋祐介君 滝口恵介君 田代徳太郎君 5/6 バンコク国際大会へ 鈴木園彦君 馬場信彦君 丸山征夫君 西巻克郎君 坂井範夫君 鈴木 武君 高橋祐介君 田中悌司君 渡邊久晃君 渡邊光郎君 5/12 米山奨学生柳エテツシ(新潟)へ 丸山征夫君



会長挨拶
三条南ロータリークラブ 会長
鈴木 園彦

皆さん、こんにちは。ご挨拶を申し上げます。

3 週間振りの例会です。本日はゲストスピーカーとして、自衛隊新潟地方協力本部長 吉田賢一郎様よりお越しいただいております。貴重なお話をお聞かせいただけることと存じます。吉田様、よろしくお願い申し上げます。

この連休中に各紙に報道されました『平成 24 年春の叙勲』におきまして当クラブメンバー 野島廣一郎さんが、地方自治功労で『旭日単光章』を受章されました。真におめでとうございます。クラブを代表してお祝い申し上げます。野島会員には、後日、叙勲に関しましてのお話を伺う機会を設けさせていただきたいと存じます。その折にはどうぞよろしくお願い致します。

4 月 4 日～8 日まで三条市内に滞在されました 1550 地区 GSE メンバー団長のペーターさんが所属されております RC のバナーが送られて参りました。当地区の訪問先クラブでバナー交換をし、途中で手持ちものが無くなり、オランダに手配されていたものです。ようやく我がクラブにも届きましたので皆様にご紹介致します。

なお、5 月 3 日(木)に出発しました“バンコク国際大会参加研修旅行”、6 日に大会開会式に出席し、7 日に無事に帰って参りました。この研修旅行につきましては次週改めてご報告申し上げます。

今夜は宵宮、明日は三条祭り午後から八幡宮から大名行列が出ます。参加される関係者の方々大変ご苦労様です。

スケジュールがたて込んでおりますので、以上で会長挨拶を終わります。



四つのテスト

一言行はこれに照らしてからー

- I 真実かどうか
- II みんなに公平か
- III 好意と友情を深めるか
- IV みんなのためになるか どうか



こころの中を見つめよう 博愛を広げるために

国際ロータリー会長 カルヤン・バネルジー [インド]

第2560地区ガバナー 石 本 隆 太 郎 [新 潟]

第4分区AG 山 田 文 雄 [見 附]

会 長 鈴 木 園 彦

幹 事 熊 倉 高 志

S A A 吉 井 正 孝

事 務 局 〒955-8666 三条市旭町2-5-10

三条信用金庫 本店内

TEL 0256-35-3477 FAX 0256-32-7095

E-mail info@sanjo-minami.jp

URL http://www.sanjo-minami.jp



熊倉 高志 幹事

○2012～13 年度杉山太三郎 2560 地区第 4 分区ガバナー補佐(巻RC)より

「2012～13 年度第 1 回第 4 分区会長・幹事会」開催のご案内

日 時 2012 年 5 月 18 日 (金) 18:00～20:30

会 場 新潟市西蒲区巻 割烹 渡辺

※坂井範夫次年度会長、丸山征夫次年度幹事出席予定

ようこそ 三条南ロータリークラブへ



2012 (平成 24) 学年度ロータリー米山記念奨学生

オ布騰 道日吉 (ツァイブトン ドルジ) さん

< カウンセラー: 丸山征夫会員 >

こころの中を見つめよう
博愛をあげるために



中国・青海省出身の米山奨学生のツァイブトン ドルジです。
現在、長岡技術科学大学大学院工学研究科博士後期課程の情報・制御工学専攻によって工学博士号取得を目指し、“異文化環境下における情報セキュリティ管理”に関する研究に取り組んでいます。
博士後期課程修了後は、中国やモンゴルに進出している日本の企業に働きたい、そして、留学後は、日本で学んだ専門知識や自分の語学力、異文化理解度などを活かし、日中モ三ヶ国間の交流や経済活動に関わる仕事に就きたいと思っています。
これから 1 年間、お世話になりますが、どうぞよろしくお願い致します。

ニコニコボックス
NIKO-NIKO BOX

～5 月 14 日 29,000 円
今年度累計 773,480 円～

野 島 君 この度、地方自治功労で「旭日単光章」の栄に浴しました。まさに青天の霹靂で、ただただ驚いています。

鈴木(囧)君 ①当クラブの野島廣一郎会員が地方自治功労で旭日単光章を受章されました。真におめでとうございます。
②本日の外部卓話は、自衛隊新潟地方協力本部長 吉田賢一郎様です。よろしくお願い申し上げます。
③米山奨学生のドルジさん、ようこそ！1年間よろしくお願い致します。

熊 倉 君 吉田本部長様、卓話よろしくお願い致します。

星 野 君 本日の卓話では、吉田賢一郎様お世話になりますが、どうかよろしくお願い致します。

丸 山 (征) 君 今日から奨学生の道日吉(ドルジ)君が初めて登場です。どうぞ、皆さんよろしく！

齋藤君、松崎君

野島先生、「旭日単光章」受章おめでとうございます。

馬 場 (信) 君 ①この度は、野島廣一郎先生、「旭日単光章」受章おめでとうございます。健康にますます留意されて、これからも末長くご指導をお願いします。

②国際大会、無事に帰条出来ました。参加の皆様にはお世話になりました。

鈴木(武)君 タイ・バンコクの国際大会参加者、全員無事に帰ってくる事が出来ました。本当にありがとうございました。

坂 井 君 5月3日からのバンコク国際大会に行って来ました。ご一緒の皆さん、大変お世話になりました。

渡 邊 (久) 君 バンコクの国際大会に出席。同行の皆さん、お世話様でした。その上写真を沢山いただき、有難うございました。

吉 井 君 タイ・バンコクでの国際大会ご出席の皆様ご苦労様でした。私の連休は、どこにも出かけず、家に居っぱなしの連休でした。

田中君、野中君

明日は「三条祭り」です。晴れますように！

大溪君、銅冶君

BOXに協力致します。

「東日本大震災における 自衛隊の活動の実態は！？」

＝ 災害現場から着任した全国唯一の地本長 ＝

自衛隊新潟地方協力本部

本部長 一等陸佐 吉田 賢一郎 様



昨年4月着任以来、「災害派遣現場から着任した全国唯一の地本長」として、多くの方々にその体験談をお話して、既に七十回を重ねています。講話を通じて隊員の真剣・誠実な活動を知って頂き、自衛隊応援団の更なる拡大に努めているところです。災害現場指揮官、そして地本長を通じて感じることは、自衛隊は本当に多くの方々に支えられているという実感です。ご家族は勿論のこと、地域の皆さんや関係協力団体、各行政機関、国民の協力なくしては任務を完遂し得ないということです。

「結果を出すまでは下がらない」と固く決心して臨んだ東日本大震災での自衛隊の活動は、本当に高い評価を受けています。しかし、私たちが任務を完遂できた理由の一つとして、多くの人達から自衛隊の活動を支

えていただき、また、被災された東北の方々が本当に辛抱強く、冷静で整然としているその姿が、私たちの士気を高め、背中を押してくれたからだとも今でも思っています。そして、そのことを私たちは決して忘れないでしょう。

東日本大震災は、地震、津波、原子力という複合災害であり、未曾有の災害に対して自衛隊は陸海空の統合で、10万人という体制で挑みました。また、初めて、予備自衛官、即応予備自衛官の方々にも災害招集がかかり、活躍してもらいました。我々にとっても「実弾の無い有事」と呼ぶべき事態であったと思っています。日本を守るのは自衛隊だけだという強い責任感、使命感で今回の復興支援に取り組みました。

すでに、ご承知のことと思いますが、8月31日をもちまして終結宣言という事が行われています。しかし、今現在でも福島県で1,000名の隊員が除染活動に取り組んでおります。

3月11日14時46分発生いたしました。それから4分後には対策本部が設置されました。

当然の事ながら、各県の災害派遣要請があってから実際に活動するのですが、我々は、災害が起きたらすぐに行動できるように対応しております。発生から3時間後に正式に防衛省から地震、津波に関する災害派遣命令があり、さらに1時間30分後、原子力に関する命令が出て、二つの命令、二つの任務、二つの組織が出来ました。

12日、14日福島第一原発1号機、4号機が水素爆発を起こし、それまで自衛隊は、3万人態勢だったのですが、5万人、10万人とどんどんかさ上げされ、16日には予備自衛官が招集されました。災害発生から、1週間で我々の半年間の活動の基盤を作ったことになります。

1万人の先遣部隊は、関東地区から3月11日夜0時に各部隊を出発して、続々と現地へ向かい、現地の情報収集、人命救助、これから来る主力の誘導、自治体との調整などを行いました。

5月1日、この時はすでに10万人です。10万人の内訳としましては陸上自衛隊が7万人、海上自衛隊が艦艇、飛行機、人員1万4,200人、航空自衛隊が航空機、人員2万1,600名。陸上自衛隊は全部で15万人います、半分が派遣されている訳です。続々と現地に集結し、3月19日、地震発生から8日後に10万人に達しました。

私がいました部隊は三沢空港。航空自衛隊、米軍がいます。三沢空港から南に40km下がった八戸には2,000人の隊員がいます。この駐屯地に北海道から続々と約3,000名の隊員が集まってまいりました。駐屯地は人で溢れかえり、寝る場所もない状態で、雪のあるグラウンドを除雪し、テントを建てました。今までに見たことのない光景が広がりました。

これが、統合任務部隊という状態で、内閣総理大臣の下に防衛大臣がおり、その下に地震・津波部隊、原発部隊の二つの組織を一人の指揮官が束ねる。これにより、効率的、効果的、より迅速に部隊導入が可能になります。

災害の主な概要として、人命救助は1万9,000人の尊い命を救うことが出来ました。助かった方の約7割を自衛隊が救出しました。行方不明者の搜索、ご遺体として発見したのは約1万1千体でした。それから、生活支援、お風呂、水、食事の支援、瓦礫の撤去。

原子力災害については、3月17日に始まりました、空中放水、地上放水、白い防護服タイベックを着たり脱いだりする事を除染といい、この作業の支援活動、行方不明者の搜索等です。

我々は、現地での活動を、日々しっかりとデータとして保持していました。小さな部隊から上級部隊に対して「今日は何をやった」ということを報告します。今日は何人に水を配ったとか食事を配ったとか、あるいは陸側海側での遺体・行方不明の搜索で何人見つけたなど、全部細かく報告する。報告を受けた部隊はまとめて上級部

隊へ。そして最後には統合任務部隊司令部まで行き全部の活動が集計されます。これによって何が分かるのか、大きく2つの目的があります。1つは、適正な支援ができているかということです。そして、もう1つは、自衛隊の撤収の時期です。自治体が復興という街作りに移行する時期を見計らって手渡す。いつまでも自衛隊が活動するとタダですので、お金が降りてこず民生を圧迫します。しかし、自衛隊が「終わったので帰ります」ということではありません。当然の事ながら自治体のみなさんに状況を説明しながら、意向を聞きます。「自衛隊がいると安心する」等のニーズがあれば留まることもあります。

震災当時、私は八戸駐屯所の司令をやっておりました。部隊は当初岩手へ行く予定でした。ところが、気象庁が出した津波警報は北海道から沖縄まで真っ赤で、現場を離れる事は出来ませんでした。ですから、計画を変更し、八戸の現場へ向かいました。幸い八戸は津波の被害はありましたが、比較的少なく、我々は港の復旧をしました。宮城県が壊滅的な被害を受け、鉄道も道路も寸断されており、物資が流れず、物が足りない、石油、ガソリンがない、とにかく海から物資を入れるということで八戸の港を有効的に使うために復旧させました。約1週間で船が入るようになり、どんどん物資が入りライフラインが復旧し始めました。

その後、私は計画通り二つ目の被災地である岩手県釜石市から北へ10km離れた鶴住居へ向かいました。以前の景色とはまったく違っていて別世界、言葉も出ないという状況でした。ここでは約10日間、行方不明者の搜索、そして瓦礫の除去をしました。その後、三つめの被災地である釜石市内へ行き、避難箇所30カ所への物資の輸送を行いました。

4月に新潟へ赴任してから、あるお店に普段着で行き、店主と話をしていた時の話です。店主が被災現地に行った友達から聞いた話として、こんな事を言いました。「遺体が多すぎて、自衛隊がバケットローダーで運んでいるらしい。」私は、びっくりしました。そこで私は身分を明らかにして、詳しい状況をお伝えし、ご主人の認識を変えていただきました。

自衛隊は丁寧に、丁寧に行方不明者の搜索をしました。現場は何がどこにどうなっているかが分からないくらい目茶苦茶な状態でしたが、ご遺体を見つけたら収容は必ず一体ごと車に乗せて遺体安置所までお運びしました。自衛隊の車は大変大きな車ですが、そういうトラックであっても一体だけです。唯一、間違いなくご家族だと思われるご遺体を一緒に運ぶことはありましたが。そして、遺体安置所へ運んで泥だらけなご遺体をきれいにふき取ることもしましたし、埋葬、火葬まで我々が行いました。本来は厚生労働省の仕事ですが自衛隊がやっておりました。

そんな中、毎日行方不明者の搜索をしている隊員の心は疲れ、厳しい状況にありました。これをクリアするために。専門のカウンセラーチームを作り、4人ずつの2チームで巡回カウンセリングを行いました。しかし、10万人の隊員に対応するのは大変なことで、自分達でもケアをしようということで始めたのがクールダウンということです。

現地では、夜は活動せず休んでいます。その時、みんなで今日あったこと、見たこと、聞いたこと、思ったこと等なんでもいいから話しをさせます。話をすることで気持ちが楽になり負担が減ります。しかし、周りにクールダウンを薦めていたのですが、私自身がクールダウンを忘れていました。実は3月17日に病氣療養中だった父が亡くなりました。上司に2日間休みをもらい葬儀に参加しました。棺の中の父の顔を見た時、自分ではまったく意識が無かったのですが、涙が止まらなくなりました。自分自身のクールダウンが出来ていなかったのです。皆さんも色々ストレスが溜っておられると思います、どうか、話をしてクールダウンを行って欲しいと思います。

長い災害派遣期間で、隊員のやる気を持たせるためにどんなことをやったかと申しますと、自衛隊には毎日のように、ツイッター、メール、ファックスなど応援メッセージが届き、それを印刷をして、各部隊に届けました。それを出発前の朝礼で読ませました。「ありがとう」それだけで、隊員は目頭が熱くなって「今日もがんばるぞ」という気持ちになります。災害派遣の最初の頃、ヘリコプターで救出にきた救援隊を見て「空から天使が来た」と言われたのですが、1ヶ月経つと「うるさい」等そんな風に言われながらも、「ありがとう」の言葉が我々のエネルギーになったという事です。

また、手作りで新聞も作りました。現場の隊員、現場を支えてくれている隊員、ご家族、地域の皆さんに活動の様子を伝え、応援団になってもらいました。

八戸市の市役所のHPに自衛隊の活動が載っています。その中に、八戸駐屯地にはヘリコプターの部隊があり、上空から地上の情報収集をした時の映像があります。是非、貴重な映像ですので、見ていただきたいと思います。



最後になりますが、被災された東北の皆さんは、素晴らしかった、我慢強く、冷静、整然としていました。我々は支援しながら尊敬し、誇りに思いました。皆さんがいたことで、我々の背中を押していただき、半年の支援のパワーになったなと思っています。

自衛隊による災害派遣活動の状況

陸上自衛隊の災害活動

陸上自衛隊八戸駐屯地、第5高射特科群

被災地の災害復旧状況（岩手県大槌町）

人員 160 名、車両 50 両を派遣して作業に当たる



3月18日



4月1日



5月8日



3月18日



4月1日



5月8日



陸上自衛隊八戸駐屯地の災害活動状況

八戸市内での支援活動

4/25～5/1「がんばれ東北」
駐屯地観桜解放（八戸駐屯地）

----- 八戸市ホームページより -----

<講師プロフィール>

吉田 賢一郎

昭和 35 年生まれ 東京都出身

防衛大学 第 27 期卒

昭和	58 年	3 月	入隊
	59 年	3 月	第 4 特科連隊（福岡県久留米）
	63 年	3 月	中央資料隊付（東京都市ヶ谷）※民間企業研修
平成	元年	3 月	特科教導隊（静岡県富士）
	3 年	8 月	同中隊長
	5 年	8 月	幹部学校（東京都目黒）※陸自指揮幕僚課程
	7 年	8 月	富士学校 装備開発実験隊（富士）
	9 年	8 月	陸上幕僚監部 防衛部（市ヶ谷）
	12 年	3 月	東北方面特科隊 第 130 特科大隊長（宮城県仙台）
	14 年	3 月	統合幕僚会議事務局 第 1 幕僚室 広報班（市ヶ谷）
	16 年	3 月	研究本部 総合研究部（朝霞）
	17 年	12 月	西部方面総監部 人事課長（熊本県健軍）
	20 年	8 月	東北方面特科隊 第 4 地对艦ミサイル連隊長 兼ねて八戸駐屯地司令（青森県八戸）
	23 年	4 月 19 日	自衛隊新潟地方協力本部長

ROTARY NEWS



よねやまだより

福島のことを、世界に伝えたい

2011 年 3 月 11 日、就職活動中だった私は、春休みで静まりかえった学生寮で一人、1 週間後に迫った面接の準備をしていました。午後 2 時 46 分、携帯電話が聞いたことのない音で鳴り出しました。慌てて液晶画面



米山学友
ジュ ミズン
朱 美善さん
出身：韓国
奨学期間：
2010-12
学校名：
東日本国際大学
いわき勿来RC

をのぞくと「宮城県で大きな地震発生」との表示。「でも、ここは福島県だし」と思った瞬間、ドーンという地響きとともに猛烈な揺れに襲われました。無我夢中で机の下にもぐり、韓国の母に電話をかけながら「お母さん、助けて！助けて！」と叫びましたが、うまく通じないまま途中で切れてしまいました。私は恐怖のあまり泣きながら「もう死ぬのかな……」と思いました。

2 日後、私たち外国人留学生は大学の計らいで、東京へ避難させてもらいました。世話クラブである、いわき勿来ロータリークラブの鈴木修一郎会長（肩書は当時、以下同）と鈴木雅之幹事は何度も連絡をくれて、「とりあえず帰国した方がいい」と、勧めてくれました。福島原発の事故の影響など、母の心配が頂点に達していたこともあって、私は一時帰国することにしました。

再来日への決意 韓国では連日、日本のニュースにくぎ付けでした。特に、原発事故についてはかなり過剰な報道がなされていました。放射線に関する知識も、福島に原発があることも知らなかった私は、この時点で、ようやく事態の深刻さを認識したのです。

大学からは「5 月中旬に新学期を始める」と連絡があり、正直不安でしたが勉強を途中で投げ出したいくない、卒業だけはしたい、と再来日を決めました。親戚は反対しましたが、両親は黙って送り出してくれました。

日本で寮生活を再開しましたが、頻繁に起きる余震で夜も眠れず、友人を頼って埼玉県に行きました。授業のある時だけ、そこから大学へ通うという生活を2か月ほど続けるうち、「自分は一体、何をやっているのだろう。地震や原発の恐怖からただ逃げているだけではないか」と思うようになりました。

3 年半住んだ福島は、私にとって第二の故郷です。私の心は次第に「ここで復興、復旧に役立ちたい」と思うよう変化していきました。大学のゼミの指導教官の励ましもあり、私は福島で就職活動を再開しました。

「日本で就職したい」という私を、両親は今度も許してくれました。韓国では親の言葉は絶対なので、もし反対されたら従わなければなりません。でも両親は、私が自分で決めたことを尊重し、応援してくれました。

福島は私の特別な場所 「なぜ、留学先に福島を選んだの？」とよく聞かれます。いわき市を舞台にした映画「フラガール」が大好きだったことありますが、地方都市には、人と人とのつながりが希薄になりがちな都会にはない、「温かさ」があると思いました。結果として、大学の先生や日本の友達にも恵まれ、米山記念奨学生になってからは世話クラブの皆さんから、娘や孫のようにかわいがっていただきました。本当に幸運だったと思います。

カウンセラーの高木孝道さんは、祖父が早く他界してしまった私にとって、初めてできた祖父のような存在です。例会後、会員の事業所に連れて行ってくれたり、自宅で、家族との団欒に加えてくれたりしました。鈴木会長のお嬢さんは私の姉と同年で、よく遊びに誘ってくれました。これらの小さな幸せの数々が、いつしか、福島を特別な場所にしてくれたのです。

福島を世界に伝えたい 私はこの4月から、福島放送へ就職することになりました。配属先は営業部です。今年の新卒採用は私だけで、外国人の採用も初めてのことだそうです。採用担当の方に思わず、「本当に私で大丈夫でしょうか？」と言ってしまいましたが、大任を与えられた喜びに今は身が引き締まる思いです。

もともとは、世界の人々を結ぶホテルという場をつくりたいという夢を持っていましたが、震災を経て、マスメディアの持つ力を実感しました。

今、福島は世界中から“放射能に汚染された危険な地域”という目で見られていますが、社会に出たら、一人の外交官になった気持ちで、世界中の人々に「福島は危ない場所なんかじゃない。福島は、日本の人々が生きている場所だ」と伝えたいです。外国人の私だからこそ伝えられることがある、と信じています。もちろん、ただ安心させるのではなく、正しい情報を伝えたい。自分の役割は重要だと感じています。

3月で奨学期間は終わりましたが、会員の皆さんとはこれからも喜びを分かち合い、悲しみを支え合い、困難を助け合う絆を、保ち続けていきたいと思っています。

次週例会 5月28日 通常例会 クラブ・フォーラム「地区協議会報告」
次々週例会 6月5日 通常例会 「創立記念例会」



表紙について 銅冶康之君

[1958(昭和33)年 9月18日生]

- 9月18日・この日何の日？
 - ・1851年のこの日、『ニューヨーク・デイリー・タイムズ』（現在の『ニューヨーク・タイムズ』創刊
 - ・1971年のこの日、日清食品が世界初のカップ麺「カップヌードル」を発売
- 9月18日・この日誕生は？
 - 横山大観 よこやまたいかん（日本画家 1868年）

三條南ロータリークラブ週報

2012. 5.14

No.2036 No.36